

提言 I 【創造 新しい桜の名所づくり候補地】

下記の 4 項目を基準に植栽候補地 6 箇所を選定しました。

選定 4 項目

- 1 サクラの生育に適した環境(良好な育成)
- 2 公共交通機関で容易にアクセス可能な身近な公共施設(交通利便性)
- 3 観賞エリアとして十分な広さを確保(安全性確保)
- 4 周辺の環境・歴史文化やまちづくりとの関係性(調和、回遊性)

I 宝が池公園	～広大な敷地を活かしたロングラン花見～
II 大宮交通公園	～御土居と桜と雨庭と～
III 船岡山公園	～市内を一望する山頂を桜の園に～
IV 七本松通	～京都駅西部エリアに桜街道を～
V 東本願寺前緑地	～東本願寺前に桜と雨庭を整備～
VI 高瀬川沿い	～都心の水辺の桜を更に充実～

(位 置 図)



提言 I 【桜の花暦】

提言 I 資料 2

提言Ⅱ ソメイヨシノ景観の保全と新たな脅威

1 ソメイヨシノの景観保全

世界を魅了する京都の花見名所を保全し後世に引き継いでいくためにも老朽化したソメイヨシノへの適切な対策が必要です。

保全に当たっては、**樹木更新（植替え）が最も有効な手段**となります。しかし、巣病に対する大規模な土壌改良、大量更新による景観の乱れなど多くの課題の克服が必要となります。

他都市の対策例として、東京都や横浜市では10年前から、**特徴がソメイヨシノに類似している「ジンダイアケボノ」「コマツオトメ」という樹種への転換更新**を進めており、病害の発生もなく市民や花見客の評判も良好とのことです。

状況に応じて、樹種転換更新も有力な対策になると考えています。



【国立劇場のジンダイアケボノ】



【国立劇場のコマツオトメ】

2 サクラへの新たな脅威／クビアカツヤカミキリへの対策

サクラの虫害としてソメイヨシノ特有ではありませんが、6年前に愛知県で初めて確認された外来の「クビアカツヤカミキリ」による被害が国内でも爆発的に増加しており、本年1月には環境省が**特定外来生物に指定**しています。

クビアカツヤカミキリは、サクラ、ウメ、モモなどのバラ科樹木に寄生する害虫で公園、街路樹に被害が広がっています。

特に、**老朽化したソメイヨシノへの被害が顕著**となっており大阪府内でも狭山市のサクラが被害を受け拡大防止のため多くのサクラが伐倒されています。

クビアカツヤカミキリは**若木にはほとんど寄生しない**ことから、**樹種転換を含む樹木更新**が花見名所の保全再生に最も適した対策と考えられています。



【クビアカツヤカミキリ】



【クビアカツヤカミキリによる被害】